

## フェロモントラップで見る近年のハスモンヨトウの発生動向

野菜等の重要害虫であるハスモンヨトウの発生動向について、フェロモントラップでの調査結果を基に解析を行った。発生は、5月上旬から見られはじめ、7月中旬以降顕著に増加し、11月に入ると急速に減少する消長を示した。発生最盛期である10月の捕獲虫数は、前月に当たる9月の気温が高いと多くなる傾向であった。

### 内容

ハスモンヨトウ（写真）は野菜を始め多くの作物を加害する重要害虫であり、発生動向のモニタリングには成虫を対象にしたフェロモントラップが広く利用されている。農業技術センター内（加西市）に設置された本種のフェロモントラップにおいて、近年10年間（2007～2016）の調査結果を解析したところ、成虫の発生は5月頃から認められ、7月中旬以降に急増し、9月～10月に最盛期となり、11月に入ると急速に減少する消長を示した（図1）。



写真 ハスモンヨトウ成虫（右上枠内幼虫）

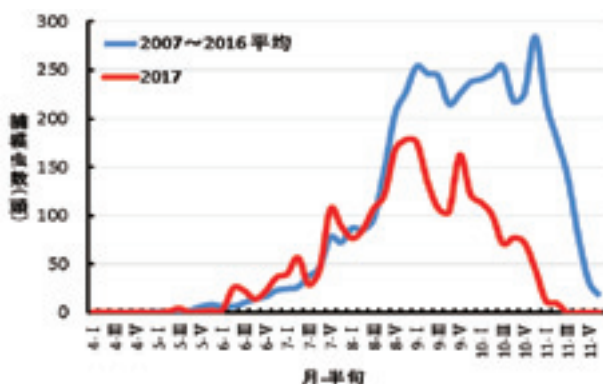


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘引消長（加西市）

ハスモンヨトウの最盛期である10月の発生量を気温との関係から検討したところ、前月に当たる9月の気温が高い年は、翌月の発生量が多く、逆に気温が低い年は、少ない傾向が顕著であった（図2）。成虫の産卵や幼虫の成育が順調に進むため、9月の気温が高いと繁殖が促進され、10月に誘殺数が増加すると考えられる。2017年は、10月の誘殺数は少なかった。要因としては、9月に降雨が続き低めの気温で推移したためと考えられる（図1、2）。

### 今後の方針

気温から翌月のハスモンヨトウの発生量が予測できる可能性が示唆された。今後は実用的な発生予察手法として確立し、的確な情報を発信していきたい。

三浦 宏晴・八瀬 順也（病害虫部）  
（問い合わせ先 電話：0790-47-2416）



図2 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの10月の捕獲数と9月の平均気温の年次変動（加西市）